

第5回 共学化して軟弱になってんじゃねーよ コラー！論文

【今回取り上げた論文】

白井裕子（2006）「男子生徒の出現で女子高生の外見はどう変わったか
—母校・県立女子高校の共学を目の当たりにして—」『女性学年報』第27号

●福島県の男子校・女子高がすべて共学に！

みなさんの高校時代は、共学だっただろうか、男子校だっただろうか、女子校だった
だろうか？

人生は一度きり、高校に通うのも一度きり（たまに二度、三度の人もおられる）、ここで
共学を選ぶか、男子校あるいは女子校を選ぶか、というのは、その後の人生にものすごく
色濃く影響を残すと、男子校出身の私は思うのである。

男子しかいない学校、女子しかいない学校の、あの独特の空気感というのは、経験した
者でなければわからない。中学高校と6年間男子校だった個人的な経験でいうと、異性の
目を気にしないで浚刺と学園生活を送る楽しさ。と、異性のいない寂しさ。だいたい1:9
くらいの比率なのであるが、なんのことはない、異性に興味のある連中は、男子校だろう
が共学だろうが、積極的に社交していた。そんな社交グループに入れなかった人たちも、
男子校・女子校の人たちには多いと思うが、一方で「女子校」という桜の園の生態は生涯
わからずじまいである。

この論文の筆者の白井さんは、福島県のとある女子校に通っていたらしい。ところが、
3歳年下の妹さんが、おなじ高校に入学した学年から、その学校が共学化された。どうや
ら、ご出身の福島県では、それまで県内84校の高校中、男子校11、女子校11、計22校
あったのを、すべて共学化したとのこと。県知事の強い要請で、「男女共同参画社会づくり
の一環」ということらしいんですけども。で、「女子校だからこそ、何事においても女子
生徒が積極的に行動でき、自立できる」と考えていたこの白井さんが、「それってどうな
の？」という視点で研究したのが、この論文なのである。

白井さんによると、生徒会長、部活の部長、合唱コンクールでの仮装、体育祭での髪を
振り乱して戦う姿……これぞ女子校ならではの、だと！それがいまやどうだ!?!と。私憤に
駆られた、熱き血潮の論文である。

●秘密の園 女子校の実態！

この白井さんが、まず、どんなことをしたかという、自分の学年、つまり「女子校時代
最後の学年の人」と、妹の学年、つまり「共学化最初の学年の人」に、それぞれ大アンケ
ートをとったんです。どんなアンケートかという、

- ・登校中、学校内、放課後、それぞれどのような服装でいることが多いか
- ・学校指定以外の靴下を履くことがあるか
- ・学校に化粧をしていくことがあるか

なにこの風紀委員ぶり！ なんだかおちょぼ口のメガネ女性が小姑みたいに生徒に質問しているような姿が浮かぶ。実際はそんなことないのだが。

すると、わかったことが以下である。

- ・女子校の生徒は、登下校中は上下ともに制服を着用するが、学校に到着すると、スカートから動きやすい運動着に履き替える

のに対し、

- ・共学化された生徒は、一日中、おなじ制服で過ごしている

のだそうです！

そうなの!? 女子校ってそうなの!? 清楚な制服でいるのは学校に到着するまでで、学校に入ったら体育の時間でもないのに運動着！ どんな運動着なのかは気になるところだが（ジャージってことだろう。さすがにブルマーはアニメのなかだけである）、まさかこれほど割り切って制服を「外出着」として着ていたとは！

さらに、

- ・靴下も、女子校の生徒は、登下校中と、学校で、履きわける

ということもわかった！

どうでしょうか。女子校出身の読者は、思い当たるところがあるだろうか？ あくまで、女子校の生徒さんにとっては、おしゃれは「外向け」であって、学校は外ではない、男性がいないから、ということらしい。

一方、共学の女子高生は、化粧を「毎日する」「ほぼ毎日する」と回答した人が多かったらしく、普段から「おしゃれ」度合いが、相対的に高いということも判明した。

そうだったのかー！ こう見えて、国語科の教員免許を持っている私の夢——女子校の教師は、実はそんなに「女の子っぽさ」に触れられないのかー！ しかも、教育実習も男子校だった私……青春をかえせー！ 夢をかえせー！と思わず絶叫したくなるようなデータである。

これによって、共学の学校に通っている女子高生は、男性の存在に無自覚なまま、女性っぽくなっている、ということがわかった。なぜかというと、「おしゃれは男性からの目を気にしてするものではない」というアンケート結果が多かったにもかかわらず、化粧の度合いは、女子校に通っている女子高生よりも高かったからである！ アンケートを全面的に信用するわけにはいかないが、異性の目があるということは、これほどまでに日常生活スタイルを変えるものなのである。おしゃれは男性の目を気にしてするものではない、という「おしゃれ観」こそ、共学出身者の余裕の表れである。本音をいえば男性を意識しているのかもしれないが、それを言うてはならない、という考え方自体が、「おしゃれ」なのである。化粧の上手い人がいたら、共学出身だと思っていもいいのかもしれない。

個人的には、女子校には、男性っぽいというか、憧れの先輩というか、ラブレターあげなくなっちゃうような、恋心を抱く先輩もいるんじゃないの？ と期待して、女子校の生徒こそ清楚でいて欲しいと思っていたのだが、はい、少女漫画の読みすぎだったようだ。この女性への憧れも、男子校出身者の淡い幻想だったというわけである。

●卒アルチェック！

次に、白井さんが注目したのは「卒アル」！ 「卒アル」っていっても卒倒アルコールとかではない。「卒業アルバム」。現代の若者は「卒アル」というらしい。

この方、おなじ福島県内で、やはり女子校から共学校になった学校、そして逆に男子校から共学校になった学校、そして自分の学校の3校について、自分の学年と妹の学年の「卒業アルバム」を入手して（つまり計6冊）、外見がどう変わったか、に着目したのである！

そこまでしますかね、普通!?! 研究のためとはいえ。

自分の学校でも学年でもない卒業アルバムを、「この人かっこいい！」とか「こいつないわー」みたいな目的以外で、見ている人をはじめて知った！

合計6冊にわたる卒業アルバムにのっている、個人の顔写真を、どういう髪型か、とかどういう表情か、とか、どういう服装か、というさまざまな観点からすべてを集計！

なにをやっているのだ。風紀委員通り越して、なにかちょっとアブなげな人ではないか。

「この女はパーマかけてる！」、とか「この女はウェーブヘアだ！」とか、「こいつ笑顔だ！」……みたいな。一人ひとり検証して、パーセンテージまで出しちゃってます！

そうすると、

- ・「女子校」より「共学後」の女子高生のほうが、髪が長い！（30%から40%に！）
- ・「女子校」より「共学後」の女子高生のほうが、ウェーブヘアが多い！（3%から9%に！）
- ・「女子校」より「共学後」の女子高生のほうが、歯をみせて笑っている写真が多い！（65%から74%に！）

・「男子校」から「共学後」の女子高生よりも、「女子校」から「共学後」の女子高生のほうが、笑顔が多い！（51%から74%に！）

ちくしょー、どんどん女らしくなってきたやがってー！ ということである。

髪型がより女性らしくなっているのはわかるが、笑顔の確率まであがっているとは……。女子校ってどこまで暗いのだ、いや、男子の存在って、どこまで女性を笑顔にさせているのだ!? 「こいつ……笑っていやがる！」と、苦虫を噛み潰すような白井さんの姿に、もはや同情を禁じえない（私の妄想であるが）。

さらにである。

・「女子校」時代より「共学後」の女子高生のほうが、体を少し斜めに傾けて写っている生徒が多い！

だからなんなのだ、という発見であるが、白井さんにとってはそうではない。大問題なのだ。白井さんは論文中、この体を斜めに傾けて写っている生徒をさして、『「ぶりっ子スタイル」を演じている』と断言しておられる。ぶりっ子ってそうだったのか。てっきり体を斜めにするのは、旅行先でのオバちゃんの写り方だとばかり思っていたが、私が甘かったようだ。

そのほか、集合写真にも目を光らせる白井さん！

・体育祭の写真は、全18枚中、なぜか男の子しか写っていない写真が7枚もあり、男が多い！

・競歩大会・マラソン大会の写真も、全24枚中男子生徒のみが被写体になっているのが18枚！

もっと女の子写せやコラー！ と。私も同感です。そこだけは。

・学園祭や合唱コンクールでは、女子の服装がおとなしくなってる！

論文をよく読むと、白井さんの学校では、女子校時代、こういうイベントごとのときには、頭からすっぽりかぶる大仏や馬のお面をかぶっていたのに、共学化した途端、浴衣やメイドになってる！ これは許せない！ ということだそうだ。

この論文、学問的にいうと「ジェンダー」の研究ということになるのですが、こういうことから、スポーツ、ネタなどは「男のもの」というジェンダー規範が、実は共学では

無意識に生まれている、ということらしい。言われてみればたしかにそうで、女子校ではネタもスポーツも女子しかいないので率先してそういう「社会的」なことを女子がやっていたが、共学化すると、そこにはもう「男の役割」「女の役割」が出来てしまっている。

白井さんは、共学化したことが悔しいのではなく、女子校で培ったそういう社会性みたいなものが、実はその先に自立した女性を育てているともいえるのに、共学化することで女性の「社会性の芽」をつんでいるようにも思える、と嘆いておられるのである。

女子校ならではの、女子による「ハッスル」がなくなってしまう、という寂しさを、この論文はデータで教えてくれたのである。

ちなみに共学化に関する論文を読むと、多くの場合、女子校は共学化すると偏差値が低くなり、男子校は共学化すると偏差値が高くなる、というデータが出ている。この白井さん、たまに妹さんの意見を聞いて、論文に反映させてるんですが、共学化してから女子生徒の化粧する割合が高くなったのは、妹さんによると、「勉強はどうでもよくなって化粧とかばっかりしてるんじゃない？」ということらしい。なんてあけすけな。こんな妹さんの意見までしっかり載せているのも、この論文の味わいである。

■マラソン、マラソン、またマラソン

振り返ってみると、東京の中高一貫男子校に通っていた私の場合、こんな男子校でしかあり得ないだろう！みたいなイベントがけっこうあった。

春は、「大菩薩峠越え競歩大会」という、夜中 24 時に懐中電灯とおにぎりとお水筒持参で、黙々と山を登る、というイベントがあり、体育の授業はそれに向けての体力づくりのために、ずっと、「マラソン」だった。

夏は、プールが学校になく、海で「遠泳」というのをしました。白いふんどしをはいて。「のし」という、日本の古式泳法で 10 キロくらい泳ぐので、夏までは、体育の授業は体力づくりのために、ずっと「マラソン」だった。

秋、2 学期になると、創立記念日に「10 キロマラソン」というイベントがあったので、それまでは体育の授業はずっと、「マラソン」だった。

つまり、マラソン以外の「体育」の授業は、冬だけだったのである。

だがその冬も、年明けの 3 学期から、3 週間、早朝 6 時に学校に登校して、「寒稽古」というのがあり、ひたすら剣道、柔道、あるいは「5 キロマラソン」をするという日々…

こんな学校が、共学化したら、私は怒りに打ち震えるに違いない！ なに茶髪にしてんだー！ くらいのことを言いそうである。

おかげで、大学に入るところには、女性となにを話していいかわからない体になっており、女性と普通に話せるまで、丸 4 年かかりました。

これからお子さんを高校に入れようというときは、ゆくゆくの人格形成まで含めて、判断したほうがいいと思われます。どうぞこの論文、そして私の半生を判断材料にしてください。